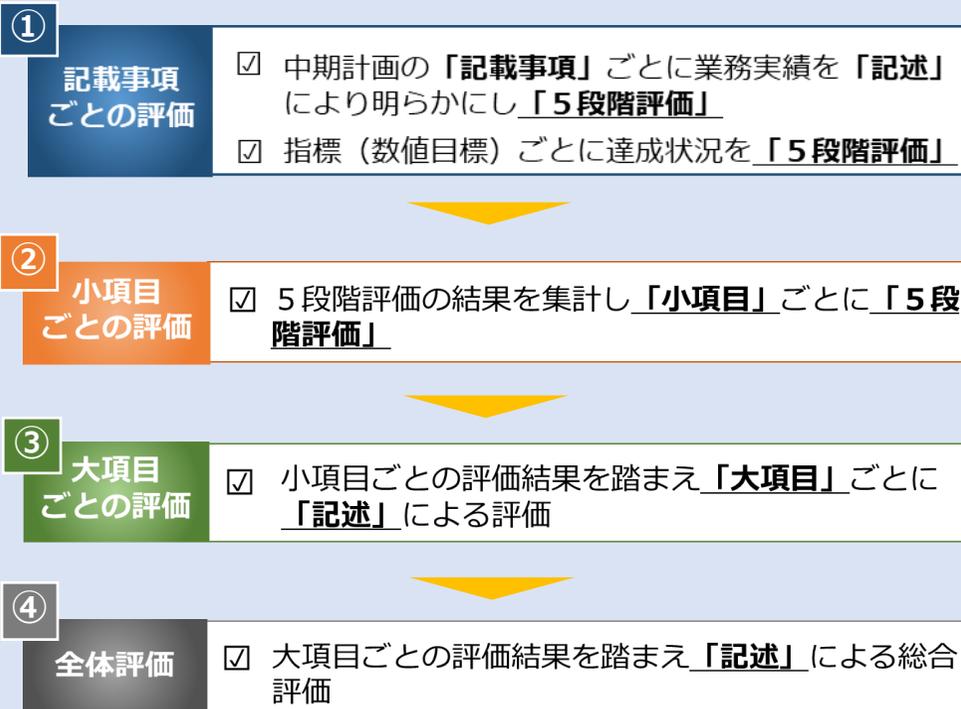


趣旨・目的

- 本報告書は、中期目標期間の業務実績（見込）について、地方独立行政法人法第28条第1項に基づき知事の評価を受けるため、同条第2項に基づき自己評価の結果を明らかにしたものである。
- なお、本報告書は6月末までに知事に提出し、公表することとなっている。

評価フロー



5段階評価の基準

- S** 中期計画を大幅に上回って達成している（計画値の120%以上）
- A** 中期計画を達成している（計画値の100%以上120%未満）
- B** 中期計画を概ね達成している（計画値の80%以上100%未満）
- C** 中期計画を下回っており改善の余地あり（計画値の60%以上80%未満）
- D** 中期計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要（計画値の60%未満）

大項目

- 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
- 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
- 3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画
- 4 県の保健医療行政への協力と災害発生時の支援
- 5 その他業務運営に関する重要事項

- 中期計画に基づき、業務実績について自己評価を行った結果、全ての小項目でB評価以上となったことから、中期計画を概ね達成しており、中期目標の達成に向け、全体として概ね順調に進捗しているものと評価する。
- 令和3年度の独法化以降、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れや、感染拡大防止のために大幅な診療制限を行わざるを得ず、医業収益に大きな影響があった。また、賃上げや物価高騰による人件費、診療材料費の増加の影響で医業費用も増大するなど、病院運営を取り巻く環境が計画策定時点とは大きく異なる状況となった。
- その状況下においても、環境の変化に柔軟かつ弾力的に対応しながら、収益確保や経費削減を推し進め、県立病院本来の役割である高度専門・政策医療を県民に対し持続的に提供し、中期目標に定められた目標の達成に向けて職員一丸となって取り組んでいる。

大項目	小項目		中期計画記載事項に対する自己評価数				
	項目名	評価	S	A	B	C	D
【大項目1】県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 高度専門・政策医療の持続的提供と地域医療への貢献	A	9	35	5	0	0
	2 患者の視点に立った医療の提供	A	5	12	5	0	0
	3 安全で安心な医療の提供	A	6	6	1	0	0
【大項目2】業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	1 優れた経営体に向けた組織づくり	A	1	11	1	0	0
	2 人材の確保と資質の向上	A	0	13	0	0	0
	3 経営基盤の強化	A	1	16	8	0	0
【大項目3】予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	-	B	0	2	2	0	0
【大項目4】県の保健医療行政への協力と災害発生時の支援	-	A	4	2	0	0	0
【大項目5】その他業務運営に関する重要事項	1 法令・社会規範の遵守	A	0	2	0	0	0
	2 計画的な施設及び医療機器の整備	A	0	3	0	0	0
	3 埼玉県精神医療センター建替えの検討	A	0	1	0	0	0
合 計			26	103	22	0	0
(割合)			(17.2%)	(68.2%)	(14.6%)	(0.0%)	(0.0%)

<総括>

県立病院本来の役目として、県民に対し高度専門・政策医療や患者目線の質の高いサービスを提供し、地域医療に貢献することで県民の健康の確保と増進に寄与している。

小項目 1 高度専門・政策医療の持続的提供と地域医療への貢献 【自己評価：A】

5段階評価(S~D)

P4~11

◎ 県立病院本来の役割である、高度専門・政策医療の提供について、4病院それぞれが病院機能に応じた医療を提供し、県民の医療水準の向上及び地域医療の充実に貢献している。

主な取組と5段階評価

循・呼センター

- Ⓢ 埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク(SSN)基幹病院としてハイブリッド手術室等を活用した高度な医療を提供
- Ⓢ 第2種感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症発生当初から対応し、重点医療機関として患者を受入

がんセンター

- Ⓐ 都道府県がん診療連携拠点病院として、難治性のがん、希少がんなどの症例の受入れを積極的に実施
- Ⓐ がんゲノム医療拠点病院として、連携病院とも協力し、エキスパートパネルの症例検討を実施

小児医療センター

- Ⓢ さいたま赤十字病院と連携して小児生体肝移植を行い、高度で先進的な小児医療を提供
- Ⓐ 総合周産期母子医療センターとして周産期医療の充実に努めるとともに、小児救命救急センターとして小児の第三次救急医療を提供

精神医療センター

- Ⓐ 依存症治療拠点機関・専門医療機関として、専門プログラムによる依存症専門治療を実施
- Ⓢ 県内唯一の児童思春期精神科専門病棟を有する医療機関として積極的に児童思春期の患者を受入れ

指標名	病院名	R元実績	R7目標	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	評価
公開研修の年間開催回数	循呼	49回	65回	47回	44回	58回	72回	A
手術支援ロボット(ダヴィンチ)使用件数	がん	206件	400件	317件	261件	370件	445件	A
小児がん登録数【困難度高】	小児	78例	450(累計)	91例	88(179)例	74(253)例	92(345)例	B
依存症プログラムの年間参加延べ人数	精神	6,505人	6,600人	5,897人	6,295人	6,738人	7,522人	A

- ◎ コロナ禍において患者との相談体制の維持が極めて困難な状況にありながらも、感染対策を徹底した対面での相談の実施や、新たにWeb相談の実施といった柔軟な対応を行った。
- ◎ 入退院支援センター等による患者への積極的な支援や、インフォームド・コンセントなど患者及び家族の視点に立った医療を進めるとともに、クリニカルパスによる医療の標準化に努めている。

主な取組と5段階評価

- S 入退院支援センター等の立ち上げを行い、コロナ禍においては感染症の検査を徹底しながら入院・転院等の調整を実施し、アフターコロナにおいても地域医療機関との積極的な調整により速やかな転院などを実現
- S 患者が安心して治療を受けられるよう、治療内容や経済面、就学などに関する患者との相談に力を入れ、コロナ禍においてもWeb相談への切り替えなどの柔軟な対応を行うことで一貫して相談体制を維持
- A 患者及び家族が医療内容を適切に理解し、安心して治療を選択できるようインフォームド・コンセントを推進
- A クリニカルパスの新規作成、既存パスの見直しによる医療の標準化を推進

指標名	病院名	R元実績	R7目標	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	評価
入院患者満足度	循呼	91.3%	92.5%	91.3%	91.2%	91.7%	90.2%	B
	がん	89.0%	90.0%	88.2%	88.1%	87.4%	88.1%	B
	小児	93.4%	95.0%	92.6%	94.3%	92.1%	94.1%	B
	精神	75.3%	80.0%	80.7%	83.3%	81.1%	86.1%	A
外来患者満足度	循呼	78.0%	80.5%	77.5%	78.0%	78.9%	73.1%	B
	がん	85.3%	88.0%	85.8%	85.1%	84.4%	84.6%	B
	小児	85.2%	87.0%	89.0%	90.5%	87.9%	87.4%	A
	精神	84.1%	85.0%	85.2%	85.1%	83.0%	84.3%	A
クリニカルパス適用率 (%)	循呼	54.9%	60.5%	62.0%	62.5%	63.0%	67.1%	A
	がん	41.8%	44.0%	44.6%	50.3%	53.6%	51.7%	A
	小児	31.0%	35.0%	36.4%	40.2%	44.0%	43.9%	S
	精神	38.2%	40.0%	37.4%	37.2%	45.0%	41.5%	A

- ◎ 医療安全対策や災害対策の推進に着実に取り組み、県民に安全で安心な医療を持続的に提供している。
- ◎ コロナ禍においては、院内感染の拡大を防止するため、感染対策マニュアルの整備や職員に対する積極的な教育・研修の実施など、様々な感染拡大予防策に取り組んだ。

主な取組と5段階評価

- S コロナ禍においては、新たにマニュアルの整備や職員への研修等を行うとともに、院内の感染対策委員会を毎月開催し、感染症対策、多剤耐性菌に係る情報共有を行い、感染防止を徹底
- A 医療安全研修を実施し、インシデント・アクシデント事例の分析、再発防止策を周知するとともに、医療安全ラウンドなどの医療安全対策を推進
- A 本部及び各病院で情報管理行動計画を策定するとともに、情報セキュリティ研修の実施により、職員の情報管理意識の向上を図り、適切な情報管理を徹底
- A BCP（事業実施計画）に基づいた定期的な訓練を実施するなど、災害時における病院機能の維持と医療救護活動拠点の役割を果たすための体制を構築

指標名	病院名	R元実績	R7目標	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	評価
インシデント・アクシデント報告件数に占めるレベル0の割合	循呼	14.2%	20.0%	25.8%	27.7%	29.6%	25.4%	S
	がん	10.2%	12.0%	26.7%	32.3%	32.8%	34.3%	S
	小児	18.6%	20.0%	34.4%	38.7%	43.5%	49.7%	S
	精神	41.7%	42.0%	32.0%	40.8%	37.2%	38.2%	B

<総括>

コロナ禍による患者の減少や、人件費・物価が上昇する中、法人化の利点を生かした業務運営を進め、効率的で質の高い医療の提供に取り組むとともに、人材の確保・養成に努めている。

小項目 1 優れた経営体に向けた組織づくり 【自己評価：A】

P23～27

- ◎ 経営サポートチームにおいて課題解決に向けた取組を推進したほか、柔軟な人事・給与制度の制定により人材の確保に努めるなど、理事長のリーダーシップのもと、法人の業務運営体制を確立した。

主な取組と5段階評価

- S 収益確保策などに戦略的に取り組み過去最高の医業収益を達成したほか、柔軟な人事・給与制度の制定や、理事会での迅速な意思決定など、理事長のリーダーシップのもと、法人の課題解決を図るための業務運営体制を確立
- A 各病院長を役員（理事）とし、各病院長に医師の実績評価や予算執行上の権限を与え、病院経営における病院長のガバナンスを強化し、課題に迅速に対応できる体制を継続することによる効率的な業務運営を実施
- A 経営戦略会議を毎月開催し、各病院の業績評価指標の進捗状況を確認し、必要な改善を進める体制を構築
- A 医師・看護師の負担軽減を図り、医師事務作業補助者及び看護補助者を積極的に配置してタスク・シフティングを推進

指標名	病院名	R元実績	R7目標	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	評価
職員満足度	循呼	65.1点	70.0点	69.4点	69.7点	70.8点	72.4点	A
	がん	61.7点	66.0点	64.2点	63.2点	66.3点	68.4点	A
	小児	63.2点	70.0点	65.1点	65.1点	64.0点	65.8点	B
	精神	72.3点	75.0点	69.1点	71.4点	71.7点	74.6点	A

◎ 医療人材の確保に向け、看護師養成校と連携した説明会などによる看護人材の確保や、研修医及び実習生の積極的な受入れにより、未来の人材確保につながる取組を進めている。

主な取組と5段階評価

- A 医療人材確保のため、看護師養成校との連携により就職説明会の開催や、インターンシップによる看護学生の受入の実施
- A 県立病院の特色を活かした研修プログラムの充実を図り、研修医や実習生の受け入れを推進することで、未来の医療人材の育成と確保を促進
- A 病院間での相互派遣、繁忙期における兼務の活用などによる柔軟なマンパワーの確保
- A クリニカルラダーレベルⅣ・Ⅴ認定を目指す看護師を対象とした研修を実施
- A 認定看護師の資格取得支援の実施
- A 職員の育成を目的とした戦略的人事異動と専門研修受講の積極的推進による、専門性と経営意識の向上
- A TQM推進室において、QCサークル活動を実施し、優れた取組内容を表彰するなどによって、職員の目標達成の意欲を向上

◎ 前方連携の推進で新規外来患者の受入など収入を確保するとともに、物価高騰による診療材料費の増加の中にあっても、共同購入対象品目の拡大や後発医薬品の採用促進など、経費削減に努めている。

主な取組と5段階評価

- Ⓐ 地域医療機関への訪問や症例検討会の実施などによって前方・後方連携を進め、新規外来患者の受入を強化
- Ⓐ 共同購入対象品目の拡大に取り組み、カテーテルなどの診療材料の新規採用を推進
- Ⓐ 後発医薬品の供給が安定しない中でも高い水準の後発医薬品使用割合を維持することで、コストを削減

指標名	病院名	R元実績	R7目標	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	評価
新規外来患者数	循呼	5,312人	5,700人	3,845人	4,525人	4,526人	4,650人	B
	がん	8,446人	8,800人	7,390人	8,136人	8,533人	8,046人	B
	小児	12,803人	12,000人	13,151人	13,811人	14,383人	14,174人	A
	精神	898人	913人	880人	1,207人	1,237人	1,223人	S
病床利用率	循呼	75.2%	81.0%	54.5%	59.1%	64.3%	64.1%	B
	がん	76.6%	82.2%	64.5%	66.4%	72.1%	72.4%	B
	小児	81.4%	83.5%	80.8%	83.2%	85.7%	85.1%	A
	精神	82.9%	84.5%	77.0%	80.8%	82.1%	82.2%	B
材料費対医業収益比率 【困難度高】	循呼	38.7%	38.2%	40.4%	38.8%	38.5%	39.0%	B
	がん	38.6%	38.1%	40.9%	40.4%	42.7%	43.2%	B
	小児	31.7%	32.0%	30.6%	33.1%	30.7%	29.9%	A
	精神	7.2%	7.0%	7.2%	7.5%	8.0%	7.7%	B
後発医薬品の割合（数量ベース） 【困難度高】	循呼	94.0%	90.0%	93.3%	92.9%	93.2%	94.7%	A
	がん	91.8%	93.0%	95.0%	93.9%	93.5%	92.4%	A
	小児	72.7%	75.0%	79.9%	81.3%	83.0%	79.8%	A
	精神	64.9%	80.0%	79.8%	77.5%	74.6%	83.3%	A

大項目3

予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

P38～41

<総括>

令和3年度・4年度においては、経常収支比率100.0%を超え黒字決算を達成することができた。
 令和5年度・6年度においては、賃上げや物価高騰による人件費、診療材料費が増加し、経常収支比率は100.0%を切った。
 コロナ禍で減少した患者数を取り戻すなど、経常収支均衡を目指して経営改善に取り組んでいる。

	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算
収入	645億3,200万円	640億3,600万円	635億7,900万円	647億5,200万円
医業収益	425億1,500万円	440億5,000万円	471億5,900万円	489億5,200万円
入院収益	282億4,100万円	292億2,800万円	313億6,600万円	323億9,100万円
外来収益	131億700万円	135億2,100万円	145億6,400万円	149億8,400万円
その他医業収益 （室料差額収益等）	11億6,700万円	13億100万円	12億2,900万円	15億7,700万円
運営費負担金	152億2,500万円	148億7,300万円	146億5,300万円	143億4,900万円
その他営業収益 （補助金収益等）	67億6,200万円	51億1,300万円	17億6,700万円	14億5,100万円
支出	626億5,100万円	635億8,600万円	662億4,400万円	682億9,300万円
医業費用	583億5,400万円	591億7,600万円	616億8,200万円	637億6,100万円
一般管理費等	7億8,200万円	7億9,300万円	9億900万円	8億3,800万円
営業外費用	35億1,100万円	35億4,300万円	36億3,900万円	36億6,200万円
臨時損失	400万円	7,400万円	1,400万円	3,200万円
純損益	18億8,100万円	4億5,000万円	▲26億6,500万円	▲35億4,100万円

指標名	R元実績	R7目標	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	評価
経常収支比率	98.2%	100%以上	103.0%	100.8%	96.0%	94.9%	B
医業収支比率【困難度高】	76.8%	79.5%以上	71.9%	73.5%	75.3%	75.8%	B

大項目 4 県の保健医療行政への協力と災害発生時の支援

P42～44

<総括>

平時より県の中核病院として救急医療や地域への医師派遣など県の保健医療行政に協力するとともに、コロナ禍や能登半島地震対応において県立病院として多大な役割を果たしている。

主な取組と5段階評価

- ⑤ (循呼) 第2種感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症発生当初から対応し、重点医療機関として患者を受入
- ⑤ (がん) 新型コロナ感染症重点医療機関として患者を受け入れるとともに、がん診療連携拠点病院として県内医療機関への情報提供等を実施
- ⑤ (小児) 新型コロナ感染症重点医療機関として患者を受け入れるとともに、能登半島地震被災地へ埼玉DMA Tを派遣
- ⑤ (精神) 他の精神科病院では困難なコロナ患者を受け入れるとともに、能登半島地震被災地へ埼玉DPAT先遣隊を派遣

大項目 5 その他業務運営に関する重要事項

P45～49

<総括>

県立病院として、職員一人ひとりが法令、社会規範を遵守するための取組を確実に行うとともに、必要性や費用対効果等を総合的に勘案し、計画的に施設や医療機器の整備を進めている。

小項目 1 法令・社会規範の遵守 【自己評価：A】

P45～46

- ◎ 倫理観や社会規範の啓発を進めるとともに、透明性の確保を図るため、各病院のホームページやSNSなどで積極的な情報発信に取り組んでいる。

小項目 2 計画的な施設及び医療機器の整備 【自己評価：A】

P47～48

- ◎ 緊急性、必要性を考慮し、費用対効果を検証しながら計画的に施設及び医療機器の整備を進めている。

小項目 3 埼玉県立精神医療センター建替えの検討 【自己評価：A】

P49

- ◎ 建替え後の災害拠点精神科病院の指定を念頭に、将来の医療ニーズ等を踏まえた精神医療センターの在り方について検討を進めている。